

FM番組『ジェットストリーム』

1967年7月～



夜間飛行のお供をするパイロットは 私 城達也です…

後藤 亘 (TOKYO MX/TOKYO FM)

放送13000回を目前に、スタート当時を振り返って

みんがの語り部 3う民放史
題字 中川 順

電話が鳴った。「直ぐに、放送を止めなさい！」と霞ヶ関A課長からだ。

「あなたに命令されることはありません。直接、松前に申し入れて下さい！」と私。

松前とは、松前重義先生、元逓信院総裁、無装荷ケーブルの発明家、そして東海大学創立者である。

電話はFM放送実用化試験局の免許更新拒否処分を受けたあとのことだ。

そんな渦中、JALの伊藤宣伝課長から電話が入った。

「JALは国の資本が主体なので、国と係争中の放送会社(FM東海)にCMを流すことはできないよ！残念ながら『ジェットストリーム』をやめざるを得ません！」と。

私は「仰ることの趣旨は判りますが、番組『ジェットストリーム』は放送を継続します。しかしJAL提供とかCMは放送いたしません。」と答えた。

半年ほど過ぎ、司法との判断も経て、調停がありFM東海は実用化試験局を返上し、多重放送の実験局のみ継続となる。

ということ、CMのない放送を継続能となり、CMのない放送を継続

し続けることとなる。

当然の如く予算もない。すべての番組を自社のアナウンサーによるサス番組とせざるを得ない。

それに伴い『ジェットストリーム』を城達也さんの語りで続けることが出来ないなら、この番組は中止せざるを得ないと判断した。しかし、なんとそれでもそれは避けたい、必死である。

城さんに「出世払い」を約束し、実質ギャンブル無料で出演をお願いした。

快く引き受けて頂いたことを今でも思い出し、本当に感謝しながら、その後本当に出世払いをしたか：曖昧で実に忸怩たる思いとなっている。

それから約一年後、エフエム東海はエフエム東京としてあらたにスタートするが、『ジェットストリーム』は1967年7月3日の放送開始から1970年9月に1000回を迎えることとなる。

やがて、この『ジェットストリーム』が全国FM放送38局ネットワークを構築する大きな役割を担うこととなる。

全国各県毎にFM局の免許が付され、設立事務所が出来ると、



満天の星をいただく果てしない光の海を…

各々の県内の人々から、あの『ジェットストリーム』は当然聴けるようになるのですね。お願いしますという声が寄せられた。青森県や島根県、そして鹿児島県からも。

しかし一方、JALもスポンサーとして全国展開するにあたり大きな問題もあり、何度か大きな壁に突き当たったことがある。にもかかわらず博報堂の協力と

全国FM社の熱意で今も続いている。一つの奇蹟かもしれない。番組が名声を受けると、いつの間にか放送会社のものでなく、スポンサーのものでなく、すべての聴取者のものとなる。

ところで、どんなきっかけでこの番組が出来たのか。

それはJALの伊藤宣伝課長との出会いに始まる。彼は、アメリカで毎晩のように聴いていたアメリカンエアーラインのFM番組『ミュージック・テイル・ドーン (Music T.I.I. Dawn)』のような番組を日本でもやってみたいという夢を持って帰国された。

一方小生は、FM東海(FM実用化試験局)の営業マン。ラジオ関東(現ラジオ日本)が放送していた『ポーツ・ジョッキー』、『ポーツ』という霧笛の音からケン田島さんの甘い口調で始まる旅情あふれる番組がと

ても好きであった。

そしてある時、時代はいよいよ空の旅の時代になるとして、JALに15分のベルト番組「ムーン・ライト・ハーモニー」を企画し提案した。

正に偶然にも思いが基本的に同じであり最初の面談から一気にもりあがった。伊藤さんは「15分なんて短すぎてダメ駄目。4〜5時間は欲しいね!」「そんな時間はとれないですよ!」60分だけって無理です。でも今放送していない午前0時からなら、何とかできるかなあ!」

当時、NHKをはじめ放送は午前0時までには終了していた時代。まして、実用化試験局で午前0時から60分の帯番組をスタートするにはいろいろな課題があった。しかし、偶然にも思いを同じくした二人の心を止めることは出来なかった。

早速、アメリカから『ミュージック・テイル・ドーン』の同録テープをとり寄せて関係者による試聴会を開いた。

びっくりしたのがテーマの長いこと、タイトルコールまで3分以上あったような気がする。

この試聴から、あのジェット音に始まる効果音と『ミスターロンリー』のテーマ曲、それにのせて話す城さんの語り口、という構成が出来上がった。

太陽が沈んでからもうずいぶん時が流れました昼間の騒音と埃に汚された時間はすっかり宇宙の果てしない暗黒の中へ吐き出され

今 私達のまわりを音もなく流れている時間は高度1万メートルの空気のようにフレッシュです

地球の自転によって成層圏に起こる壮大な大気の流れジェットストリーム

その神秘的な永久運動さえこの純粹な時間の流れの中では夜の潮騒のように

私たちの身近に迫ってまいります

(この詞は伊藤酒造雄さん作詞によるもので放送999回まで続いた。)

JAL側は伊藤宣伝課長と共に伊藤酒造雄さん、堀内茂男さん、

F M東海側は制作者川島渥さん、そのほか本当に多くの人達の知恵がこの番組をつくりあげた。

殊に選曲を独りで決め、演出を巧みに仕上げた川島渥さんには本当に感謝している。彼は実用化試験局時代の忘れられない親友である。選曲のセンスは抜群で殆ど頭に選曲のメロディが入っている。

だから、60分番組を録音して制作するのに、生放送のように60分で仕上げるスゴイ制作マンだった。更に城さんの語りが浮き立つように、ボーカル入りの選曲を一切やらない方針で始めた。

城さんはJAL提供のゴルフ番組のMCを日本テレビで放送し、また、声優としてはグレゴリー・ペックの吹き替えで評判であり、声優としての確固たる地位を得ていた。

当時、何年か先には必ず城さんの肩書きはあのジェットストリームの城さんと言われるようにすることを秘かに誓ったのを思い出す。

そして1000回放送の時にオープニングの詩を次のように変更することとなる。

脚本家堀内茂男さんの登場である。

遠い地平線が消えて

深々とした夜の闇に心を休めると

はるか雲海の上を音もなく流れ去る気流は

たゆみない宇宙の営みを告げています

満天の星をいただく果てしない光の海を

ゆたかに流れゆく風に心を開けば

きらめく星座の物語も聞こえてくる

夜の静寂(しじま)のなんと饒舌なことでしょう

光と影の境に消えていった

はらかな地平線も

臉に浮かんでまいります

日本航空があなたにお送りする音楽の定期便 ジェットストリーム皆様の夜間飛行のお供をするパイロットは

私 城達也です

テーマ曲は『ミスター・ロンリー』フランク・プウルセル・グラランド・オーケストラ。

この堀内さんの詩(コピー)が番組『ジェットストリーム』の代名詞にもなっている。

城達也さんと堀内茂男さんのコンビが1000回放送から、即ちエフエム東京としてスタートした約5カ月後から始まっている。そして、城達也さんがジェットストリームの案内役を終了した時に、堀内茂男さんのスク립トも終了となる。

それは、1994年11月末のこと。

帰宅途中「ジェットストリーム」を聞いてみると「あれ？城さんがいつの間にか別人になったの？」と驚いて、翌日ディレクターに質問すると、更に大きな衝撃を受ける。

城さんがその時、気管支ガンの病がかなり進行していたにもかかわらず必死でこのジェットストリームに全力投球していることが判明。城さんと二人でゆっく

り話し合いの場を持つ。お互い同志の仲であり彼の心情を察しつつ、彼の申し入れを受け入れる。

「後藤さん、ご免ね！ 勝手なことをして！ 本来ならもつと前に止めなければと思いつつ、今日まで来てしまった。確かに声質が変わってしまったし、もう城ではなくなつた。

でもこのジェットストリームは私の生き甲斐になっており、甘え



-堀内茂男(作家) 城達也、伊藤恒(JAL宣伝課長)の各氏、筆者-

てズルズルやってしまった。

今年の大晦日までやらせて欲しい。あとは、僕の後輩の小野田英一君を紹介する。」と。

あのゴルフのシングルプレイヤーが、やせた体にムチ打つ姿は、悲哀そのものだった。

悲しい出来事であった。

その城さんが、最後の放送(1994年12月30日)でリスナーに語りかけた言葉が、

「わたくしがご案内役を務めてまいりました『ジェットストリーム』も、今夜でお別れでございます。

長い間本当にありがとうございました。またいつの日か、夢はほのかな空の旅でお会いいたしましう。

(少し間)そして来年1月2日からは、装いも新たなジェットストリームが旅立ちます。」

(通常のエンディング・コピーに続く)

「夜間飛行のジェット機の翼に点滅するランプは：あなたの夢に溶けこんでいきますように」

そのエンディング・ナレーションの後、「では皆様、さようなら。

よいお年をお迎えください。」と締めくくっている。

リスナーには、その理由も分からない。事情を知る者からすると、実に淋しく悲しいメッセージで、たまらない言葉であった。

そして、その翌年2月末に彼は帰らざる永遠の旅人となってしまった。

彼はこのジェットストリームを通算7387回の放送を成し遂げ、『ジェットストリーム』イコール城達也というイメージを確立させた。

その城さんの亡きあと、今日の通算13000回放送を控えて、いろいろな紆余曲折があった。



2代目パイロット
小野田英一氏

時にはロマンを求めるものから、より実利を求めて旅の情報番組化への道とか、城さんのあとの出演

者・構成者などのスタッフをみるとその変化が見えてくる。

しかし、2002年10月1日から再び企画内容を原点に戻し、4代目パイロットとして伊武雅刀氏がナレーションを担当し堀内茂男氏のスクリプトに復帰し、「遠い地平線が消えて…」で始まる詩を『ミスター・ロンリー』の曲に乗せた初期のスタイルに変更する。



4代目パイロット伊武雅刀氏

様を動画としてブロードバンドでも同時生配信する。

この放送1万回「1DAY企画」をプロデュースしたTOKYO OFMの延江浩は次のような感想を語っている。

「入社してADになりたての頃のことも僕は『ジェットストリーム』のスタジオが怖かった。城達也さんも構成作家の堀内茂男さんも色

気のある大人の雰囲気や漂わせていて近寄りたかつた。担当の営業も広告会社の男たちも美しいラインのスーツを着込み、ディレクターにしても、折り目正しく黙々と仕事をすすめるスタッフがスタジオに集っていた。そのとき既に日本で最も有名だったラジオ番組に携わる彼らが大学を出

たばかりの若造を相手にしてくれずがなれないと思いついていた。局から帰って同期と少し飲み、午前零時、自分の部屋でラジオの

そして2004年11月25日、FM東海時代から通算1万回を放送。

伊武氏のナレーションと溝口肇氏のチェロ演奏を生放送し、その模

スイッチをひねる。ジェット airflow の効果音。「ジェットストリーム、ジェットストリーム、ジェットストリーム……」。

遠くから城達也さんの声が聴こえ、ミスターロンリーのメロディとともに夜間飛行が始まる。

「夜の静寂(しじま)のなんと饒舌なことでしょうか」という言い回しは僕にとつて奇蹟に思えた。研ぎ澄まされた言葉とロマンティズムの極地。ラジオの前で聴き手は少し緊張する。そう、その緊張は、ここではないどこかへの旅を目前に飛行機のシートに身を沈める気分似ていた。

夜間飛行は1万回を迎える。

このフライトは宝物だ。イマジネーションの旅。いながらにして海外へいざなう。日本人の心。世界の心。

文字通り63億の午前零時がこの番組に凝縮されている。》

2007年7月3日、放送を開始してから40周年に当たり、豪華ゲストを迎えて2時

間特別番組を放送。

更にその一つとして、ジェットストリーム40周年記念「国境なき合唱団チャリティーコンサート2007 IN ウィーン」の模様を放送する。この国境なき合唱団は、40周年を迎えた感謝の心を形にしよ

うと、世界の恵まれない子供たちへのサポートを目的としたチャリティーコンサート・ツアーとし、ウィーン楽友協会(ヴィーナー・ムジークフェライン)大ホールという夢の舞台に約300名が立ち、ベートーヴェン交響曲第9番などを熱唱。

観客として現地の方々、ウィーン在住の日本人の方々も多く訪れ、完成度の高い合唱の模様を拍手喝采が起きるなど、なかなかの盛況のうちに幕を閉じた。



現パーソナリティ 大沢たかお氏

2009年4月1日から五代目パイロットとして大沢たかお氏がナレーションを担当することとなる。素晴らしい声が、城さんに代わって新しい時代を創っている。

最近のリスナーの声をピックアップして紹介する。

《月曜日から金曜日まで、眠る前に気分をリラックスさせるために聴いています。この番組を聴き始めたのはいつなのかおぼえていませんが、城達也さんが機長を務めていた頃からでした。かなりの長寿番組になりましたが、これからも続けていって欲しいです。》

《深夜ジェットストリームを聴くのが一日の終りの日課となっております。大沢たかおさんのナビゲーターと素敵な音楽は心から癒されます。これからも番組応援しております。》

《朝から夜までラジオを聴きながら仕事をしています。ジェットストリームは番組のコンセプト、選曲、夜の雰囲気合う素敵な音楽ばかり。日本のラジオ番組でこ

れまでしつかりした番組はジェットストリームです。》

《79歳になったところです。先週体調不良で不眠に悩んでいて偶然ジェットストリームがOAされていて夢中で拝聴しました。それ以来すっかりはまり込んでしまい、大沢たかおさんと溝口肇さんに若き日を思い出しながらいいぞいと感動し友人に触れ回っています。》

《子供のころから聴いています。長い時間乗り物に乗れないためジェットストリームで夜中に空を飛んでいる気持ちになっています。大沢たかおさんの優美な声は一日の終わりにホッとさせてくれるおまじないのようです。これからも楽しみに聴かせて頂きます。》

このように、今でも多くのファンの皆様がこの番組を支えて下さっている。

今後の更なる発展を望みつつ、ジェットストリームの足跡をまためてみた。

【資料提供】JAL日本航空

TOKYO FM 筆者